

1 目指す学校

【スクールミッション】

「積極的態度の養成」「基礎的教養の把握」「スポーツの振興」を教育目標とし、高校生としてやるべきことを力一杯頑張る生徒を育成します。「学校で学ぶ」ことを充実させて、自己実現に向けた「自ら考え、判断する力」を育てる授業実践から、自発的・積極的に社会に貢献する人間力を育成します。

【教育目標】

- 1 積極的態度の養成…生徒の個性・特性を伸長させ、自発的・積極的に行動する態度を養う。
- 2 基礎的教養の把握…学力の充実とともに豊かな人間性を養い、社会に貢献できる人間力を身に付ける。
- 3 スポーツの振興…スポーツを通して体力の増強を図り、自尊心と他人と協調する精神を高める。

【スクール・ポリシー】

(1) グラデュエーション・ポリシー

- ・物事全体を見通して、計画的に行動できる。
- ・知識と技能を活用して、自ら判断することができる。
- ・高校生だからできること、高校生でなければできないことを、積極的に実践する。
- ・ひとのために、汗を流して社会貢献できる。

(2) カリキュラム・ポリシー

- ・中等教育で学ぶべき内容を、生徒にしっかりと身に付けさせる。特に「学校で学ぶ」ことに主眼を置き、学習内容全般にわたって、全ての教科を広く学習できるように準備する。
- ・学ぶ楽しさを生徒が味わえるような授業実践をして、難関大学受験も視野に入れさせる。
- ・1・2学年での類型化は最小限にして、3学年での選択科目で大学受験等に対応させる。

(3) アドミッション・ポリシー

- ・授業を大切にして、集中して学習できる。
- ・課題を見つけ、将来に向けて夢を持ち、学校生活を送る。
- ・今やらなければならないことを後回しにせず、率先して行動できる。
- ・思いやりをもち、皆で協働することができる。

本校は、教育目標に「積極的態度の養成」「基礎的教養の把握」「スポーツの振興」を掲げ、これからの予測困難な時代を生きぬく逞しい力を生徒に身に付けさせるため、学力の基礎・基本を確実にする取組を行うとともに、すべての教育活動を通して、自発的に考え行動し、社会に貢献できる人間力を育成する学校を目指す。

- (1) 授業を大切にして確かな学力を身に付け、希望の進路を実現できる学校
- (2) 特別活動や部活動を充実させ、自他を尊重し協調性を育む学校
- (3) 活気にあふれ帰属意識と誇りをもち、地域から愛される学校
- (4) 社会に関心をもち、自ら課題を見つけ解決する力を高めることができる学校

2 中期的目標と方策

本校は、スポーツの振興を教育目標に掲げ、部活動を活発に行い大きな成果を出してきたが、学習との両立にやや課題があった。令和4年度より「Sport Science Promotion Club」に指定され、科学的トレーニングの積極的な導入等により、短時間で効果が得られるような、合理的でかつ効率的・効果的な活動を推進している。スポーツを通じた心身の健全育成とともに、学習指導、進路指導、生活指導の充実を図り、バランスの取れた教育を推進する。

(1) 学習指導…教科が主体となって授業力を向上させる。

- ・ICT機器やソフトウェア、一人1台端末の活用を推進する。
- ・観点別評価の導入に伴う指導と評価の一体化を進める。
- ・教材や考查問題の共有化を図り、情報交換を密にして教科全体で授業力を向上させる。
- ・教員相互の授業見学や研究授業を通し、授業改善を推進する。
- ・生徒の学力を分析し、学力伸長に向けた方策を教科で検討する。
- ・課題を発見したり探究したりする活動を取り入れ、生徒の主体性を伸長させる。
- ・グループ学習や発表の機会等を通して、表現力や批判的思考力を育成する。
- ・適度な学習課題や予習復習の奨励により、自宅学習を習慣化させる。

- (2) 進路指導…進路指導部が中心となって系統的な指導を行う。
- ・進路指導部が中心となり、3年間を通した進路指導計画を再構築する。
 - ・3年間の模試計画を作成し、模試の実施と振り返り指導を全校体制で行う。
 - ・長期休業中の講習は、進路指導部が統括し、教科が中心となって講座を設定する。
 - ・1年次「人間と社会」において、社会に目を向けさせ、自己の在り方生き方を考えさせる。
 - ・多様な生徒の進路希望に合わせ、就職や専門学校の情報を蓄積し提供する。
 - ・保護者との面談（二者または三者）を全学年で行い、家庭と連携した指導を行う。
- (3) 生活指導…基本的生活習慣を確立し、学習や進路その他、生徒自身が管理できる時間を確保する。
- ・遅刻を減らし、授業規律を保ち、授業を大切に学校生活を送らせる。
 - ・情報端末機器を有効に利用させ、規範意識を育成するとともに、自宅学習の時間を確保する。
 - ・学校行事、委員会活動や部活動において、生徒の主体性を伸長させる。
 - ・部活動において、短時間で効果が得られるような、合理的でかつ効率的・効果的な活動を推進する。
 - ・いじめ防止と体罰根絶に向けた取組を推進する。
 - ・自転車通学でのヘルメット着用を推奨し、交通安全意識を高める。
 - ・防災訓練や生徒会活動を中心に、地域との連携を推進する。
- (4) 健康・保健指導…心身の健康管理とともに感染症対策を継続する。
- ・特別支援教育コーディネーター、各学年、養護教諭、SCの連携により、情報共有を促進する。
 - ・生徒支援委員会において、情報共有とともに、不登校、発達障害等での必要な支援策を講じる。
 - ・都の指針に基づき感染症対策を継続する。
 - ・スポーツを振興し、体力向上を図る。
- (5) 学校運営…企画調整会議と教科主任会議を核とし、経営企画室と分掌、教科の連携を強化する。
- ・教科主任会議を定例化し、教科全体の指導力を向上させる。
 - ・分掌と学年の連携を強化する。
 - ・必要に応じて主幹会議を開催し、管理運営機能を補完する。
 - ・業務の効率化と削減を図り、教職員のライフワークバランスを推進する。
 - ・ネットワークを有効活用し、生徒保護者への連絡、広報活動を効率化する。
 - ・経営企画室と分掌、教科が連携し、予算を適正に執行し、施設・設備の更新を最適化する。
 - ・校舎改築に向け、新たな委員会を立ち上げ、都と連携し基本計画を作成する。

3 今年度の取組目標と方策 最重点目標 「学校の組織的な進路指導力の向上」

I 学習指導

教育活動の目標 と 方策①～⑨ ◎授業力の向上 ◎基礎基本の定着 ◎主体的学習意欲の向上	重点目標と数値目標（過去3年間の推移）
① ICT機器やソフトウェア、一人1台端末を積極的に活用し、生徒が主体的に活動できる授業を実践する。	授業満足度 肯定的評価の割合 85%以上 (83.6⇒87.5⇒84.7)
② 1,2年生は観点別評価に伴い、教材の共通化や評価材料を増やす等、教科全体で指導と評価の一体化を進める。	
③ 数学、英語で習熟度別少人数授業、家庭科で少人数授業を実施し、生徒の状況に応じたきめ細かい指導を行う。	
④ 教員相互の授業見学を各人が学期に1回以上行い、年次研修の研究授業を積極的に参観し、授業改善を推進する。	相互の授業見学 延べ126回以上
⑤ 模試を利用し過去の問題に取り組ませるとともに、模試の振り返り指導を行い、基礎基本の定着を図る。	
⑥ 教科で模試や生徒の学力状況を分析し、教科として課題を共有し、授業改善に生かす。	
⑦ 英語検定の受験を積極的に推奨する。	英検受験者 延べ500人以上 (127) 英検2級合格者数 20人 (3⇒16⇒18)
⑧ 図書館の利用を高め、読書感想文コンクール、ビブリオバトルを組織的に実施し、読書活動を推進する。	図書貸出数 年2000冊以上 (2438⇒1270⇒1201)
⑨ 適度な学習課題を与え、予習復習の奨励等、自宅での学習（授業外の学習）習慣を身に付けさせる。	自宅学習時間平日平均 学年数相当時間以上

Ⅱ 進路指導

教育活動の目標 と 方策①～⑧ ◎進路指導部を中心とした組織的な進路指導の実施	重点目標と数値目標（過去３年間の推移）
① 進路指導部が作成した３年間を見通した指導計画に基づき、進路指導部と各学年が連携して進路指導に当たる。生徒・保護者に適時適切な情報を提供し、進路意識を啓発する。安易な進路選択に流れず、高い目標を目指して取り組ませる。	大学受験合格者数 ○国公立大難関私立大 ４名（４⇒２⇒２） ○GMARCH ２０名（８⇒２２⇒１８） 大学入学共通テスト受験者数 ２００名 （１６０⇒２２５⇒１７０）
② ３年間の模試計画を作成し、進路指導部と各学年が協力して模試を運営する。教科とも連携し、事前・事後の指導を行う。	１月全国模試３教科平均偏差値 ４５以上 （１年 ４３.５⇒４３.０⇒４３.８） （２年 ４２.９⇒４３.５⇒４２.１）
③ 長期休業中の講習を進路指導部が統括し、教科が中心となって講座を設定する。余裕をもって生徒に提示し、積極的に参加させる。	講座開講数 ５０講座（２９⇒３７⇒４７） 参加者数 延べ ８４０人（３４０）
④ 「総合的な探究の時間」を計画的に実施し、１年次の「人間と社会」において、社会に目を向けさせ、自己の在り方生き方を考えさせる。	
⑤ 多様な生徒の進路希望に合わせ、就職希望者や専門学校希望者に適切な情報を提供し、個に応じたきめ細かな指導を行う。	
⑥ 個人面談を計画的に実施する。保護者との面談（三者または二者）を全学年で実施し、家庭との連携を図る。	保護者面談実施率 ９０％
⑦ 教科で模試を分析し、模試分析会を実施し、教科ごとに問題点を明確にして、授業改善に生かす。	
⑧ 進路報告会を開催し、進路指導の継続性を図る。	

Ⅲ 生活指導

教育活動の目標 と 方策①～⑨ ◎基本的な生活習慣の確立 ◎部活動と学習その他の両立	重点目標と数値目標（過去３年間の推移）
① 挨拶を励行して、コミュニケーションの円滑化を図る。	
② 遅刻指導を工夫して遅刻を減らす。時間を大切にし、授業を大切にする、けじめのある学校生活を送らせる。	遅刻年間総回数 １０００回未満 （２０３６⇒１８７８⇒１７９３）
③ セーフティ教室や生徒会活動を通して、「SNS東大和ルール」を認識させ、規範意識の向上を図る。	
④ 情報端末機器（一人１台端末、スマートフォン）を有効有益に利用させ、自宅学習の時間を確保する。	
⑤ 生活指導部が文化祭等の学校行事、委員会活動や部活動を掌握し、生徒の主体性を伸長させる活動を推進する。	特別活動における満足度 ９０％以上 （８４.５⇒９１.８⇒８９.６）
⑥ 部活動を奨励し、短時間で効果が得られるような、合理的でかつ効率的・効果的な活動を推進する。部活動と学習その他が両立できる時間を確保する。	関東大会、全国大会出場 ４部以上
⑦ いじめ防止と体罰根絶に向けた取組を推進する。生命尊重と、多様性への理解を深め、豊かな人間性を育む。	
⑧ 自転車通学でのヘルメット着用を推奨し、交通安全意識を高める。	
⑨ 地域と連携した防災訓練を実施し、防災意識を高める。	

IV 環境美化・健康増進

教育活動の目標 と 方策①～⑥ ◎中途退学者ゼロ ◎感染症のクラスターゼロ ◎行事での怪我ゼロ	重点目標と数値目標（過去３年間の推移）
① 特別支援教育コーディネーター、各学年、養護教諭、スクールカウンセラーの連携を図り、生徒支援委員会において、情報共有とともに、不登校、発達障害等での必要な支援策を講じる。	中途退学者 0人（1⇒1⇒2）
② 支援の必要な生徒には、積極的に外部との連携を図る。	
③ 「学校いじめ対策委員会」を中心として、いじめや暴力のない学校生活を継続する	
④ 生活指導部を中心に、都の指針に基づき感染症対策を継続する。	
⑤ 授業や特別活動を通してスポーツに親しむ態度を育成し、体力テスト、球技大会や体育大会を怪我ゼロで実施する。	体力テスト 全種目全国平均以上
⑥ デジタル化の促進により、更なるペーパーレス化を図る。	

V 募集広報活動・地域交流活動

教育活動の目標 と 方策①～④ ◎効率的効果的な広報活動により、本校第一志望者を増加	重点目標と数値目標（過去３年間の推移）
① 総務部が広報活動を統括し、計画に従って全校協力の下、広報活動を行う。学校内外の学校説明会は業務負担を分散化し、効果的効率的な募集活動を実施する。	学校説明会来校者数 1200 組 (380⇒1030⇒1077) 中進対倍率 1.35 倍 (1.27⇒1.34⇒1.33) 入学者選抜募集倍率 推薦 4.0 倍 (3.87⇒3.83⇒3.98) 学力 1.3 倍 (1.17⇒1.18⇒1.27)
② 学校Webサイトを最大限活用する。タイムリーな更新を行い、古いデータを整理し、情報発信を充実させる。	Webサイト更新回数 300 回以上 (375⇒443⇒413)
③ 授業公開、部活動体験、学校見学会、公開講座、施設開放等により、地域に開かれた学校を目指す。	
④ 生徒会を中心に、地域と連携した活動を推進する。	

VI 組織体制・学校運営

教育活動の目標 と 方策①～⑦ ◎企画調整会議と教科主任会議を軸とした一体的学校運営	重点目標と数値目標（過去３年間の推移）
① 教科主任会議を定例で実施し、教科の指導力を強化する。	
② 分掌が主体となって業務を計画し、分掌と学年が連携し、学年の差が無いよう３年間を見通した指導を行う。	
③ 必要に応じて主幹会議を開催し、管理運営機能を補完する。グランドデザインの見直しを行う。	
④ 会議のペーパーレス化と時間短縮により、業務の効率化を図る。業務の見直しにより、業務削減を図り、教職員のライフワークバランスを推進する。	
⑤ ネットワークを有効活用し、生徒保護者への連絡を確実に行う。アンケートや提出物もネットワークを活用する。	
⑥ 経営企画室が主体となって、分掌教科と連携し、遅滞なく予算を執行する。施設設備を計画的に更新する。	
⑦ 校舎改築に向けた委員会を新設し、都と連携しながら、今年度中に新校舎設計の基本計画作成に取り掛かる。	